

農林被害防止のためのくくり罠による効果的なニホンジカ捕獲方法の開発

令和2～4年度（執行委任：国補：鳥獣被害防止総合対策交付金）

川島直通

本調査では農地周辺における ICT 囲い罠による捕獲に加え、農地後背山林において既往の捕獲方法であるくくり罠による捕獲を実施し、集落スケールにおいて農地や山林におけるシカ出現頻度を効果的に低下させることができるかを検証する。また、シカ捕獲場所、捕獲数およびシカ出現頻度を継続的にモニタリングし、一度シカ出現頻度が低下した地域において、捕獲圧を変えることでシカの出現頻度がどのように変化していくのかを調査する。さらに、くくり罠を用いた効率的なシカ捕獲方法の検討を行う。

1. モデル地区におけるシカ出現頻度の経時変化

三重県伊賀市に位置する子延地区では、2017～2018 年度に集中的な農林併行捕獲を実施し、2019 年度からは捕獲圧を下げて捕獲が実施されている。2017 年度～2022 年度の期間、農地後背山林に 16 台の自動撮影カメラを設置し、シカ撮影頻度を調査した。また、捕獲圧を下げた 2019 年度以降は、冬季に糞粒法によりシカ密度を調査した。その結果、捕獲圧の大きい期間である 2017～2018 年度はシカ撮影頻度が大幅に低下したが、捕獲圧を下げた 2019 年度以降はシカ撮影頻度が増加傾向にあることがわかった。糞粒密度に関しては、2019～2021 年度まで増加傾向を示したが、2022 年度は減少した。

三重県伊賀市に位置する富永地区では、2020 年度から農林併行捕獲を実施している。2020 年度～2022 年度の期間、農地後背山林に 14 台、農地に 4 台の自動撮影カメラを設置し、シカ撮影頻度を調査するとともに、冬季に糞粒法によりシカ密度を調査した。その結果、農地後背山林および農地ともにシカ撮影頻度が 2020 年度以降減少傾向にあった。糞粒密度に関しては、2019～2021 年度まで減少傾向を示したが、2022 年度は増加した。

2. くくり罠による効率的なシカ捕獲方法の検討

効率的にシカを誘引する方法を検討するため、三重県伊賀市の調査地においてシカ誘引餌の嗜好性の調査を実施した。調査実施時期は 2022 年 5 月～7 月とした。誘引餌として米ぬか、ヘイキューブの 2 種類を使用した。誘引餌(各 1 kg)は調査地の山林内に 1 m 程度離して 1 列に配置した。調査地には自動撮影カメラを設置し、新鮮な餌を置いてから 1 週間程度の期間に撮影された獣の種類と頻度を調査した。その結果、いずれの期間中もイノシシにより米ぬかが頻繁に採食され、シカは米ぬかがイノシシにより全て採食された後にのみ出没した。イノシシが米ぬかに誘引されている間はシカが警戒して誘引餌に寄り付かないものと考えられた。

誤作動による捕獲個体の捕り逃がしを防止することを目的とし、安定的に作動するくくり罠の構造や資材を検討した。①本体とワイヤーを改良したくくり罠（本体：安定的な構造に改良、ワイヤー：柔軟性の高いものを採用）、②ワイヤーのみ改良したくくり罠（本体：改良前のくくり罠、ワイヤー：柔軟性の高いものを採用）を用いて捕獲を実施し、誤作動の発生率（誤作動回数／作動回数）を比較した。いずれもくくり罠の設置箇所付近に誘引餌（ヘイキューブまたは米ぬか）を置いて捕獲を実施した。その結果、①のくくり罠では誤作動の発生率が 0/6、②のくくり罠では 1/6 となった。改良前のくくり罠では 10/15 であったことから、改良により誤作動の発生率が減少したものと考えられた。